

PGO

CS-125



お客様へ

この度は PGO スクーターI-CHARGE125 をお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。この商品に添付されております取扱説明書はヨーロッパ向けに作られているため英文にて説明されています。

簡単ではございますが、機能及び取扱方法について説明している個所を日本語にてご説明できるように本書を作成いたしました。

乗車される前に必ず本書をお読み頂けますようお願い致します。

また操作方法及び整備に関する質問がございましたらご購入いただきましたP G O取扱代理店までご相談ください。

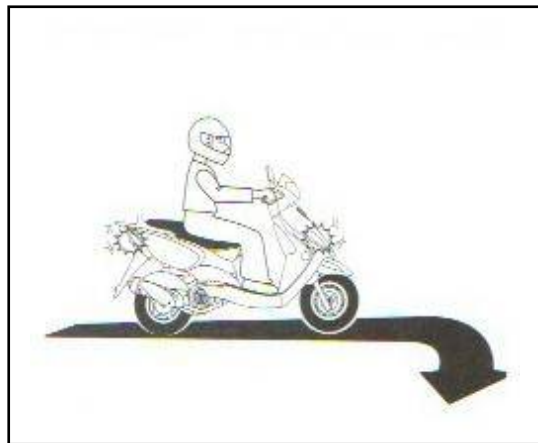
PGO日本代理店
NOVEL FORCE INC.JAPAN

目 次

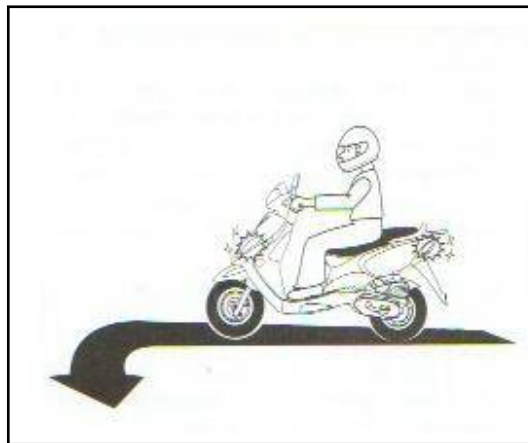
安全な乗り方の指示	3
各部の名称	4
車体の認識	5
エンジン番号	5
コントローラーの機能	5
インディケーターライト	6
スピードメーター	6
ハンドルスイッチ	7
リアブレーキレバー	8
フロントブレーキレバー	8
燃料タンクカバー	8
キックスターター	9
ハンドルロック	9
シートロック	9
荷物入れ	9
乗車前の点検	10
ブレーキ	11
ブレーキオイルチェック	11
スロットルグリップ	11
エンジンオイル	12
エアークリーナー	12
タイヤ	12
ランプ・シグナルライト	13
スイッチボタン	14
燃料	14
触媒	15
操作・乗車する際の注意事項	15
エンジンをかける	16
エンジンの暖機	16
乗車	16
加速	17
ブレーキ操作	17
エンジン慣らし運転	18
駐車	18
定期的メンテナンス	19
排気ガスに関する制御機能	22
排気ガスCO・HC検査	22
エアークリーナー洗浄	25
スパークプラグ点検	25
ブレーキ調整	26
ブレーキオイル点検	28
フロントフォーク点検	29
バッテリー	29
ヒューズの交換	29
保証書	31

安全な乗り方の指示 （ 5、6 ページ参照 ）

1. 交通法規に定められた円滑な合図を適時出して下さい。



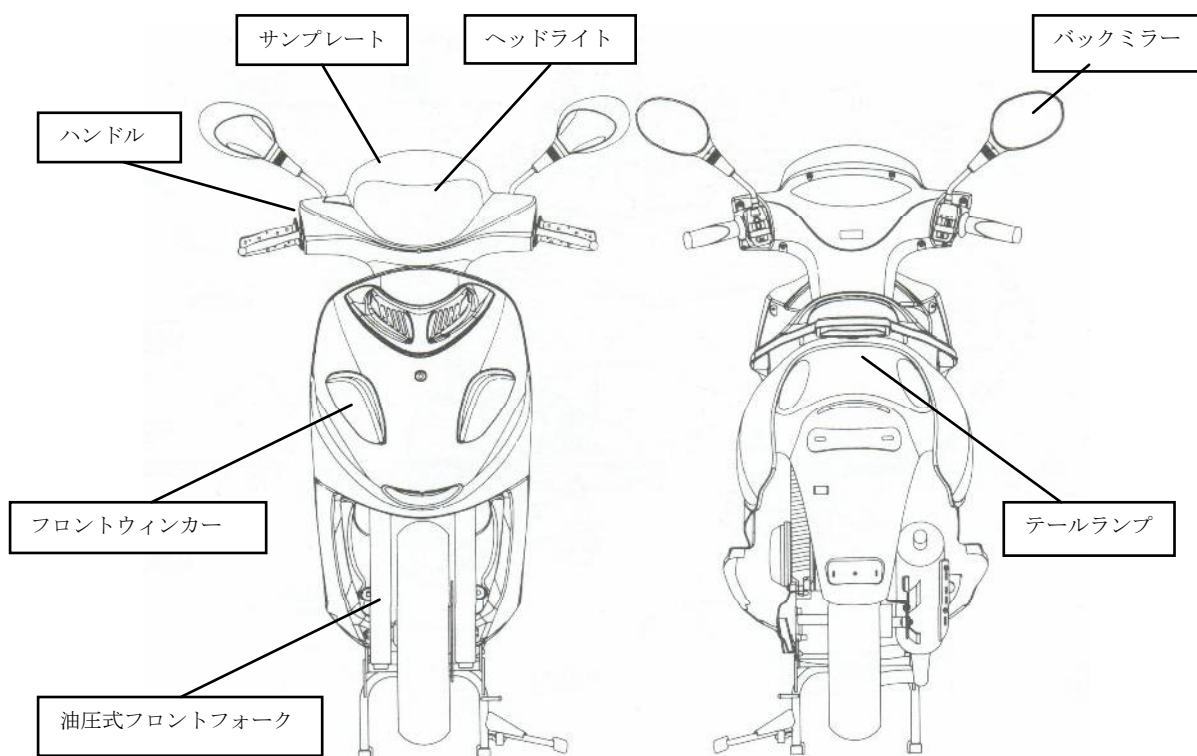
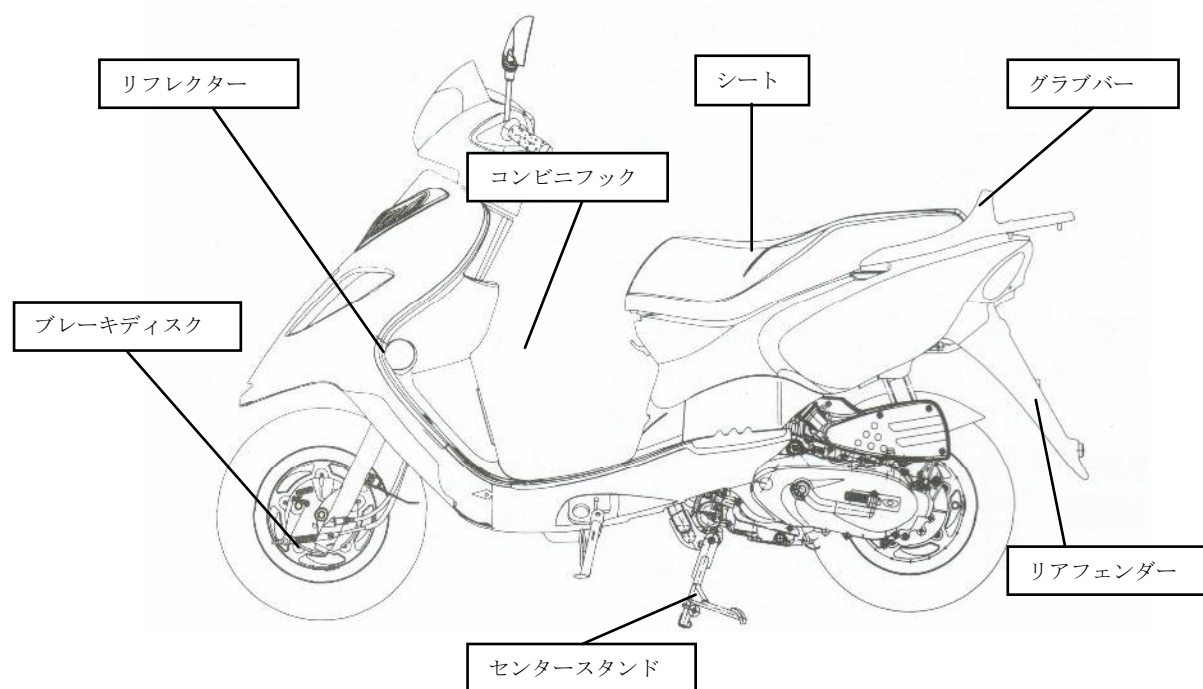
右 折



左 折

2. 路面が濡れている時はブレーキが大変効きづらくなります。スリップを防ぐ為、徐々にブレーキをかけてスピードを落として下さい。
3. 交差点や曲がり角に入る時は直立状態でスピードを落として下さい。曲がった後は少しずつスピードを上げて下さい。
4. 駐車中の車輛を追い抜く時は、気をつけて下さい。運転者はあなたが走ってくるのに気付かず、ドアを開ける可能性がありますので、十分に注意を払って下さい。
5. 工事中の場所を通過する時は、気をつけて下さい。路上の工事用車輛等があなたに影響を与える可能性があります。スピードを落として下さい。
6. スクーターを洗った後は、ブレーキをチェックして下さい。ブレーキライニングが濡れている可能性があります。
7. 乗車する時は、安全を確保できるズボン、手袋、ヘルメット、明るい色のジャケットを着用して下さい。
8. 荷物を積み過ぎないで下さい。乗車中にバランスを崩す恐れがあります。荷物はしっかりと動かないように積んで下さい。あなたの道路状況への注意力が落ちる可能性があります。

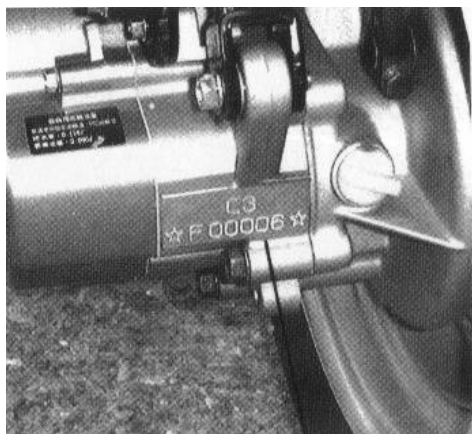
CS125DBE タイプ （ 8 ページ参照 ）



車体の認識 （ 9 ページ参照 ）

エンジンナンバー

エンジンナンバーは左クランクケースの後方部に記載されています。



＊ 上の列の 3 桁はモデルタイプ、下の列は製造番号を表します。パーツを注文する時に、必要となりますので、書き控えておいて下さい。

コントローラーの説明 （ 10 ページ参照 ）

メインスイッチ：

メインスイッチはエンジンの点火とライトを制御します。



""

ハンドルがロックされ、鍵を取外せます。
16 ページの“ハンドルロック操作”を参照して下さい。

鍵が"”或は"”の位置にある時、押しなが
ら左に回すとシートが開けられます。

※駐車する時は"”或は"”にし、鍵を外して
下さい。

""

電気回路がつながり、エンジンが
始動します。この時、鍵は外せま
せん。

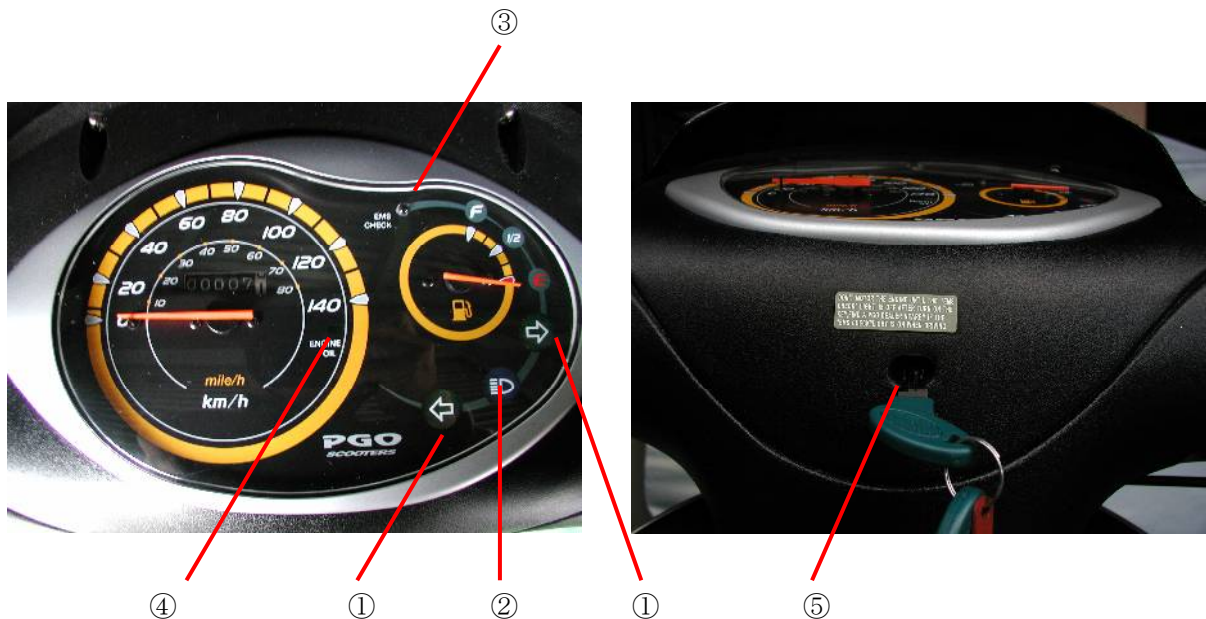
""

全ての電気回路が遮断されます。
この時、鍵を外せます。

注意：

1. この車輛にはフューエルカットシステムを
設けています。走行中に転倒が生じた場合、
電源が ON になっていた場合でも自動的にエ
ンジンが停止します。
2. 再始動したい場合、バイクを直立姿勢に戻
し、一度電源を off にしてから、再始動して
下さい。

表示ランプの説明 （ 11 ページ参照 ）



- ①方向指示器（緑）：
作動させると、点滅します。
- ②ハイビーム表示ライト（青）：
ハイビームを使用している時は、点灯します。
- ③電源スイッチを入れ、EMS 検査ランプが 2 秒ぐらい点灯し、検査を行います。完了後にランプが
また点灯された場合、インジェクションシステムに異常の恐れがありますので、正規販売店で検
査を受けて下さい。
- ④ENGINE OIL のランプが赤に変わった時、取扱店でエンジンオイルを交換して下さい。
- ⑤交換した後に、鍵で内側に押すと、緑に戻ります。

スピードメーターの説明 （ 12 ページ参照 ）



走行距離メーター

走行距離メーターは速度メーターに設置しています。

燃料計

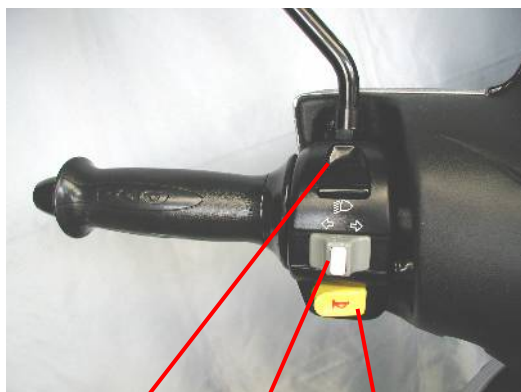
燃料計

タンク中の残量を示しています。燃料が消費されるにつれ、針は“F”から“E”へと指すようになります。針が赤ラインを指したら、出来るだけ早く燃料を補給して下さい。

注意：

燃料補給は完全に無くなる前に行って下さい。メインスイッチが“O”にした時、針が燃料の量を指し“A”にした時、針が“E”を指します。

ハンドルスイッチの説明 (13 ページ参照)



① ② ③

④ ⑤

1. ハイ&ローライトスイッチ

遠くを照らす時は  に、近くを照らす時は  にします。

2. 方向指示器

左右への方向転換：ボタンを左、もしくは右にします。ボタンを離すと方向指示器は自動的に中央に戻ります。

3. クラクション

ボタンを押すとホーンが鳴ります。

4. スタートボタン

フロントブレーキレバー或はリアブレーキレバーを引き、同時にスタートボタンを押すと、エンジンが始動します。

5. ライトスイッチ

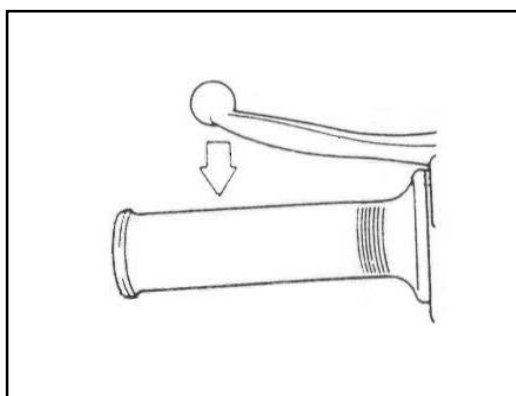
悪天気の場合、ファーストシフトにするとフォグライトがつきます。セカンドシフトにするとヘッドランプがつきます。

※日本仕様はヘッドライトを常時点灯式に変更しておりますのでスイッチの使用はできません。

(14 ページ参照)

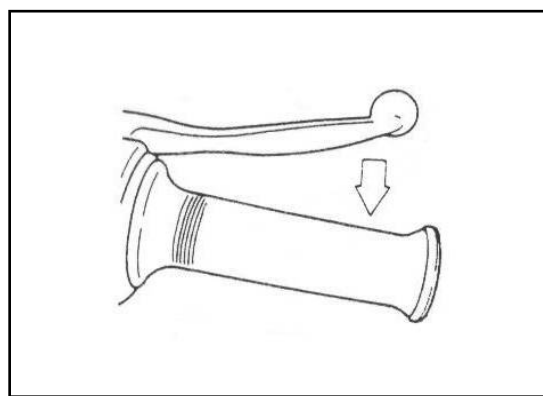
リヤブレーキレバー

リヤブレーキはハンドル左側の
レバーを引くと作動します。



フロントブレーキレバー

フロントブレーキはハンドル右側
のレバーを引くと作動します。



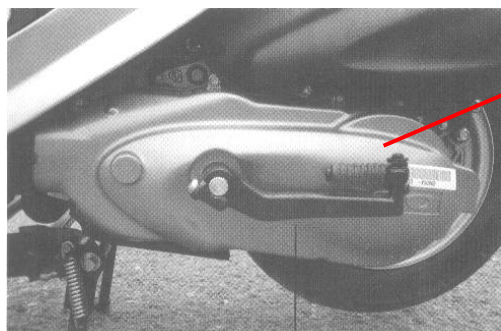
燃料タンクカバー (15 ページ参照)

鍵をさし、時計の逆方向にまわすとシートが開きます。



キックスターター (15 ページ参照)

キックペダルを出し、ギヤが噛み合わせるまでに踏込むとエンジンが始動します。



キックペダル

ハンドル（ステアリング）ロック（ 16ページ参照 ）

ハンドルを左にきって下さい。次に鍵を"の位置から時計の逆方向に"の位置まで回すと、ハンドルがロックされ鍵を取外せるようになります。鍵を時計方向に回すと、ハンドルロックが解除されます。



※ 乗車中は"にしないで下さい。

シートロック（ 16ページ参照 ）

シートを開ける時は、鍵をさして、押しながら時計の逆方向に回して下さい。

荷物入れ（ 17ページ参照 ）

シートの下にあります。ヘルメットの前方を前向きにして入れて下さい。
図を参考にして下さい。

1、荷物入れ



注意：

最大 5Kg を超える積載はしないでください。

注意：

1. エンジンを長時間作動させていると荷物入れが熱くなります。高温に耐えられないものは入れないで下さい。
2. 安全のため、貴重品や壊れやすいものは入れないで下さい。
3. 雨や洗車で中の荷物が濡れることがありますので、水に濡れて困るものは入れないで下さい。
4. 濡れたものを入れる時は、防水材質のものを使って下さい。

注意：

スクーターから離れる時は、シートロックをして下さい。

乗車前の点検 (18、19ページ参照)

以下の項目を乗車前に必ず点検して下さい。

項 目	行 程	ページ
フロントブレーキ	ブレーキの作動状態、クリアランス、ブレーキオイルレベルをチェックし、オイルが漏れていないか確認する。必要であればFMVSS DOT3 或は SAE J1703 ブレーキオイルを補給する。	
リヤブレーキ	ブレーキの作動状態とクリアランスを点検し、必要であれば適切な調節をする。	
スロットルグリップ	滑らかであるか点検する。必要であれば潤滑油を塗布する或は調整する。	
エンジンオイル	必要であれば交換する。オイルの補充に従って、オイルレベルを点検する。	
タイヤ	空気圧と擦り減り方、異物の有無を点検する。	
コントローラー／ ゲージケーブル	スムーズに作動しているか点検する。必要であれば潤滑油を加える。	
ブレーキハンドル シャフト	スムーズに作動しているか点検する。必要であれば潤滑油を加える。	
センタースタンド	スムーズであるかチェックする。必要であれば潤滑油を加える。	
アッセンブリー／ ファーステンフィット	全てのアッセンブリーパーツを点検し、必要であれば修理或は調節をする。	
燃料タンク	燃料レベルを点検し、必要であれば給油する。	
ライト／ シグナルライト	良い状態で作動しているか点検する。	

注意：

1. 毎回乗車する前に、点検を行って下さい。上記の点検は安全快適にお乗り頂く為に必ずおこなうようにして下さい。
2. 点検の最中に異常を発見したら、修理するか、正規取扱店にお持ち下さい。

ブレーキ （ 20 ページ参照 ）

1. フロントブレーキレバー

低速走行で、ブレーキのチェックをして下さい。あそびをチェックし、適正でなければ調節して下さい。

注意：

レバーを握った時の感覚がスポンジのような感触だった場合、ブレーキが壊れている可能性があります。修理するまで、乗車しないで下さい。

2. ブレーキオイル（ディスク）

オイルの量をチェックし、必要に応じて補充して下さい。

（専用ブレーキフルード FMVSS DOT3 或は SAE J1703 を使用して下さい）。

3. ディスクブレーキのパット

（ 43 ページを参照して下さい）

注意：

ブレーキの交換・修理が必要な時は、正規取扱店にスクーターを持込んで下さい。

ブレーキオイル漏れチェック

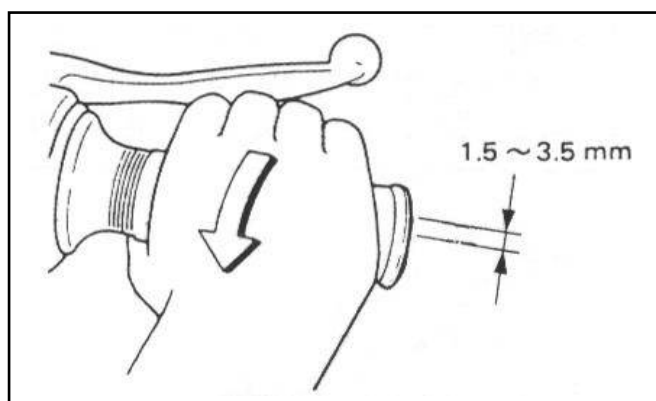
ブレーキレバーを数分間強く握り、ブレーキチューブやマスターシリンダーの繋ぎ目からオイルが漏れていないかチェックして下さい。

注意：

ブレーキオイルが漏れていたら、正規取扱店に点検を依頼して下さい。ブレーキが壊れている可能性があります。（この状態はとても危険です）。

スロットルグリップ （ 21 ページ参照 ）

グリップを回し、あそびと作動状態をチェックして下さい。グリップが自動的にもとの位置に戻るか確かめて下さい。必要に応じ正規取扱店に持込み調節してもらって下さい。



エンジンオイル （ 21 ページ参照 ）

注意：

- ・ チェックは平らなところで行なって下さい。
- ・ エンジンオイルの量はエンジンが温まって 2.3 分たってから調べて下さい。



オイルレベルゲージ



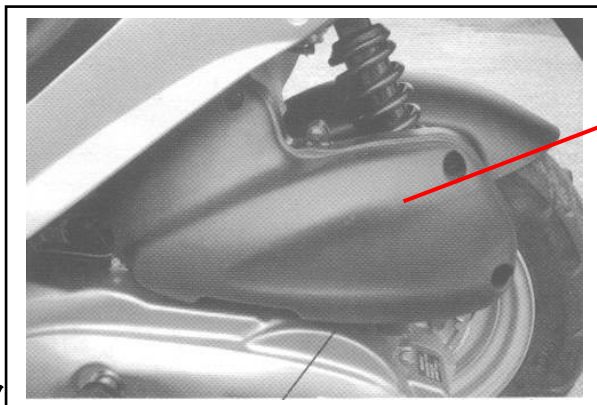
オイルゲージを引出しチェックして下さい。
警戒を表す低いラインを下回っている場合は補充して下さい。

エアークリーナー （ 22 ページ参照 ）

エアーフィルターはゴミがエンジンに入り込むのを防ぐとともに、エンジンの劣化・磨耗も防ぎます。定期メンテナンス表に従い、清掃して下さい。（ ページ参照）

注意：

エアーフィルターの清掃は 39 ページを参照するか正規取扱店に点検を依頼して下さい。



エアークリーナー

タ

タイヤ（ 22、23ページ参照 ）

最高のパフォーマンスを維持し、また長持させるため、以下の事項に注意して下さい。

1. タイヤの空気圧

乗車する前に、タイヤの空気圧を確認して下さい。

注意：

通常のタイヤの空気圧

フロント： 1.50 k g / cm²

リヤ： 1.75 k g / cm²



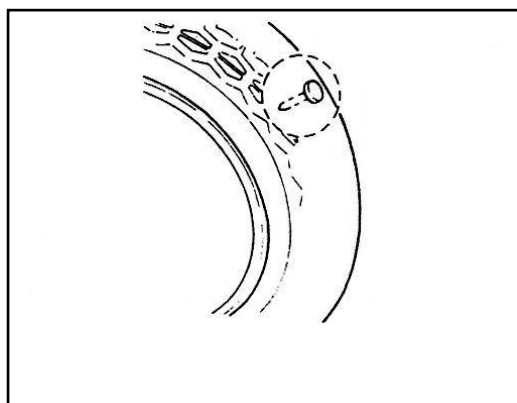
1. 空気圧が高い場合



2. 空気圧が低い場合

2. 簡単な点検：

乗車前にタイヤの外観を確認して下さい。過度の擦り減りがあったり、釘、ガラスがささっているのが発見された場合は、正規取扱店に修理・交換を依頼して下さい。



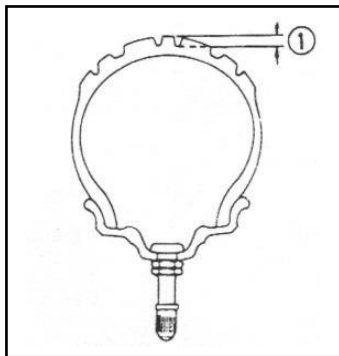
3. タイヤの溝の深さチェック （ 24 ページ参照 ）

過度の使用や汚れた道・濡れた道の走行によってタイヤの表面は磨耗します。

矢印のところまで溝が減っていたら、正規取扱店に新品タイヤの交換を依頼して下さい。

（以下の図を参考して下さい）

溝の最小深さ（前・後）＝0.8mm



1. タイヤの溝の深さ



2. ウェアインジケーター

注意：

擦り減ったタイヤでスクーターに乗るのは大変危険です。矢印のところまで溝が減っていたら、正規取扱店に新品タイヤの交換を依頼して下さい。

また、ブレーキやタイヤの修理、パーツの交換を自分で行わないで下さい。

正規取扱店が専門的なサービスを提供してくれます。

ランプ・シグナルライト （ 25 ページ参照 ）

ヘッドライト、ウインカー、ストップランプ、ブレーキランプ、方向指示器、その他の表示ライトが正常に作動しているか確認して下さい。

スイッチ

ヘッドランプ、方向指示器、ブレーキランプ、クラクション、スタートボタン、ランプが正常に作動しているか確認して下さい。

燃料（ガソリン）

十分なガソリンがタンクに入っているか確認して下さい。

無鉛ガソリンを使用して下さい。

タンクの容量： 7.0L

注意：

1. ガソリンのフィルターレベルを超えて燃料を補給しないで下さい。高温により飛び散る可能性があります。

2. ブローバイ還元装置がマフラーの後方部にあります。表面温度が非常に高いです。ガソリンがマフラーにつくと発火する可能性があります。

触媒 （ 26、27ページ参照 ）

触媒は排気ガスを制御するための装置です。マフラーに取付けられています。



触媒

注意：

マフラー表面が非常に熱いので、歩行者及び子供に火傷させないように注意して下さい。
マフラーには触媒が取付けられています。安全及び破損防止のため、下記事項を守って下さい。

1. 無鉛ガソリンを使って下さい。
(その他のガソリンを使うと、触媒が劣化し、効果がなくなります)
2. 走行中にメインスイッチを切らないで下さい。
(未燃焼混合気が触媒に流れ込むにより、触媒が劣化或は破損します)
3. 可燃物の上での走行・駐車・停車はしないで下さい。
4. 常にエンジンをよい状態に保って下さい。
(電気回路、点火装置、燃料システムの異常作動により、触媒が熱を帯びる可能性があります)
5. 排気制御システムと触媒が正常に作動するように、スクーターの定期点検を行って下さい。

操作・乗車する際の注意事項

注意：

乗車する前に全ての操作システム・機能を把握しておいて下さい。ご質問がございましたら、正規取扱店までお問い合わせ下さい。

1. 締め切った場所でエンジンをかけないで下さい。
2. 乗車する前にサイドスタンドを引上げてから乗車して下さい。サイドスタンドが下りているとスターターは回りますがエンジンはかかりません。

エンジンスタート （ 27、28ページ参照 ）



1. メインスイッチを"○"にしてください。
2. スロットルを開けずに、ブレーキレバーを握り、スタートボタンを押してください。
又はキックスターターを使って、エンジンを掛けて下さい。

注意：

もしエンジンがかからない場合は、スタートボタンを使用しないで下さい。
多大なバッテリーの消費を避けるために、5 秒間以上ボタンを押したままにしないで下さい。
もしスタートボタンでエンジンがかからない場合は、キックスターターを使って下さい。

エンジン暖機 （ 28ページ参照 ）

エンジンを大事に扱う為に、乗車する前に 1～3 分程エンジンを暖めて下さい。エンジンがまだ暖まっていないうちにエンジンに負担をかけないで下さい。

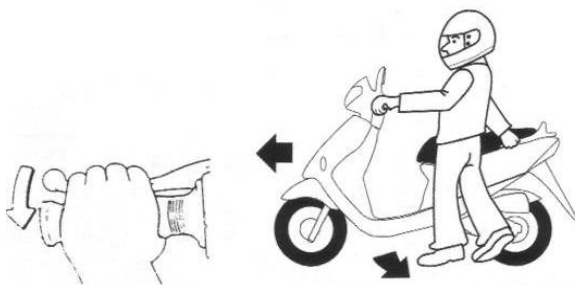
注意：

スクーターを操作する前に“エンジンの慣らし運転”のページをお読み下さい。

乗車

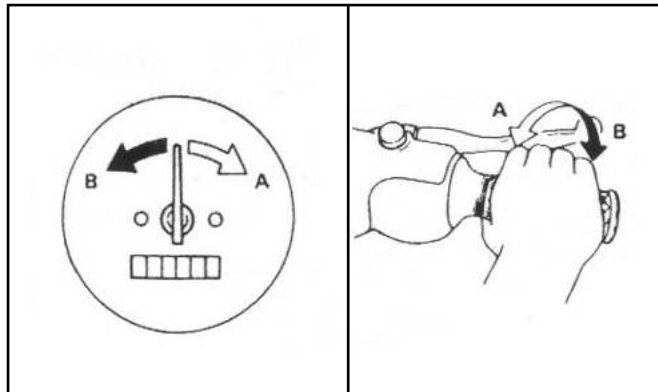
エンジンを暖機した後：

1. 右手でブレーキレバーをしっかり握って、センタースタンドを下ろして下さい。
2. バックミラーで、後方がしっかり見えるか確認して下さい。
3. 交通状況を見ながら、乗車する前にウインカー、ライトを確認して下さい。
4. ゆっくりとスロットルグリップを回し、発進後ウインカーライトを消して下さい。



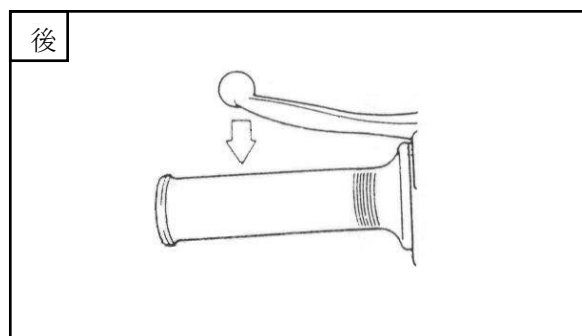
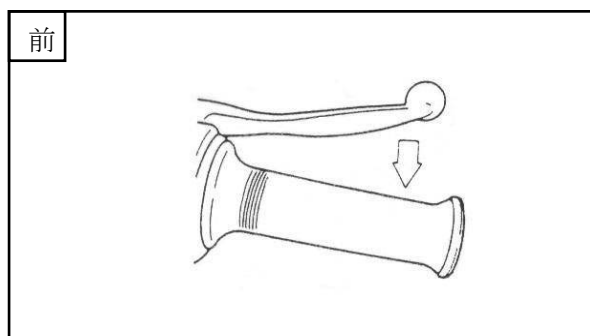
アクセル （ 28、29ページ参照 ）

アクセルを手前にひねると増速、戻すと減速します。円滑な操作を心掛けましょう。



ブレーキ

1. スロットルグリップを戻して下さい。
2. ゆっくりと前後ブレーキのレバーを引いて下さい。



注意：

1. 滑ったり、転んだりする恐れがあるので、急ブレーキをかけないで下さい。
2. 一方向にスクーターが傾いている時は、気を付けてブレーキをかけて下さい。不適切なブレーキのかけ方は滑ったりする原因となります。
3. 未舗装道路や鉄道路線、雨道ではスピードを落として運転して下さい。
4. 雨道や下り坂ではブレーキが利きにくくなります。
5. 下り坂を走る時は減速して下さい。

エンジン・慣らし運転 （ 30、31 ページ参照 ）

走行距離 1 k m から 1000 k m はスターターの寿命に一番影響する時です。新しいエンジンは始めの 1000 k m はあまり負担をかけないように機関出力の半分位で運転して下さい。

エンジンのどの部分も正常なクリアランスを得るような運転を心掛けて下さい。エンジンに過大なストレスを与える運転は謹んで下さい。

注意：

慣らし運転期間に、なにか問題があれば、正規取扱店に問い合わせして下さい。

1. 0～150 k m

1/2 以上のスロットル開度は避けて下さい。

1 時間に 5～10 分間程の割合で、エンジンを冷やして下さい。スピードを変えて走って下さい（長い時間、同じスピードでは走らないで下さい）。

2. 150～500 k m

1/2 以上、長時間のスロットル開度操作は避けて下さい。

3. 500～1, 000 k m

3/4 以上のスロットル開度操作は避けて下さい。

注意：

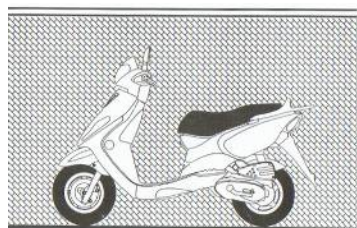
500 k m を超えたら、エンジンオイルを交換して下さい。

4. 1, 000 k m 以上

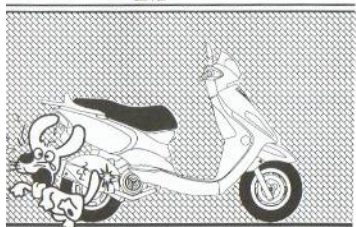
長時間の完全なスロットル全開操作を避けて下さい。

駐車

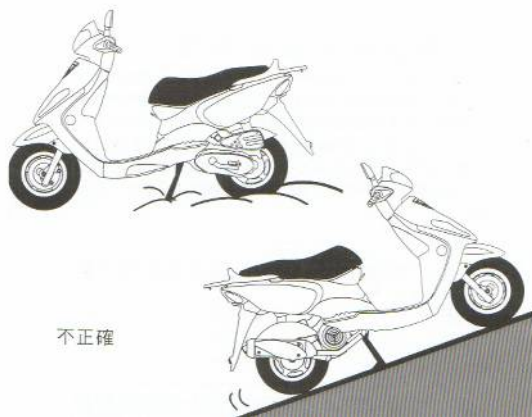
駐車する際はエンジンを止めて、鍵を取外して下さい。



正確



不正確



不正確

注意：

乗車後は

マフラーが非常に熱くなっているので、子供や歩行者からできるだけ離して駐車して下さい。

スクーターを坂道や地盤が不安定なところに停めると倒れる可能性がありますので駐車しないで下さい。

定期点検 （ 32ページ参照 ）

本製品をよりよく安全に運転していただく為に、一定の期間に点検、調整、潤滑油の補充等を行って下さい。安全運転はライダーの義務です。メンテナンスと潤滑油の補充は常に認識し、環境、天候、自然の影響による事故や乗車中の偶発的な事故以外の重要な予防措置と認識して下さい。

注意：

スクーターの点検に詳しくない場合、正規取扱店に持込んで依頼して下さい

このスクーターは正常な舗装道路用にデザインされております。泥道や濡れている道を走る時は、エンジンの消耗が早まるので、エアークリーナーを頻繁に掃除して下さい。

点検や予防措置についてご不明な点がある時は、正規取扱店にお尋ね下さい。

メンテナンス表 (33、34ページ参照)

定期点検／潤滑表

項 目	点 検 内 容	k m 毎						
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	12ヶ月	15ヶ月	18ヶ月
		500km	2,500km	5,000km	7,500km	10,000km	12,500km	15,000km
エンジンオイル*	交換	○	1,000kmごとに交換して下さい					
2次オイルフィルター	交換	○	5,000kmごとに交換して下さい					
オイルフィルター*	必要に応じて掃除又は交換	○	3,000kmごとに掃除又は必要であれば交換して下さい					
ベルト室エアクリーナー	必要に応じて掃除又は交換		○	○	○	○	○	○
ギャーオイル*	交換	○	○	○	○		○	
フロントブレーキ(ディスク)	オイル漏れと機能チェック		○	○	○	○	○	○
前・後ブレーキ(ドラム)	機能チェックと調整		○	○	○	○	○	○
クラッチ	機能チェックと調整		○	○	○	○	○	○
リアアーム*	機能チェックと調整				○	○		○
タイヤ*	バランス・磨耗チェック又は交換		○	○		○	○	○
ホイールアクスル*	緩んでいたらきつく締める		○	○	○	○	○	○
フロントフォーク*(ディスク)	オイル漏れと機能チェック	○	○	○	○	○	○	○
ステアリングジョイント*	緩んでいたら締めて調整する				○	○		○
リヤアブソーバー*	オイル漏れと機能チェック		○	○		○	○	○
メイン／(サビ)スタンド	機能チェック又は交換	○	○	○	○	○	○	○
ボルトナット	必要に応じて増し締め調整	○	○	○	○	○	○	○
バッテリー*	必要に応じてバッテリーのボルテージを12.8Vに維持する。ジョイントをきれいにし、必要に応じて通常レベルまでに液体を足す							
			○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
パルプキャップ*	エンジンが冷えてる時点検と調整	○		○		○		○
スパークプラグ*	必要に応じて清掃又は交換		○	○	○	○	○	○
Vベルト*	擦切れていないか点検又は必要に応じて交換			○	A	○	A	○
ブローパイガスシステム*	クラックとブロックチェック。 必要に応じて交換			○		○		○
燃料フィーディング*	クラックとブロックチェック。 必要に応じて交換			○		○		
高压フィルター*	機能チェック又は定期に交換する	20000 k m 毎に交換して下さい						
エキゾーストシステム*	きつく締め直すか、空気漏れして いたらガスケットを交換			○		○		
アイドル	機能チェック又は必要に応じて アイドルの調整	○	○	○	○	○	○	○
電子インジェクションコントロールシステム*	各センサー機能チェックをする	○	○	○	○	○	○	○
エアクリーナー*	必要に応じて掃除又は交換		○	○	○	○	○	○
燃料エバポレーションシステム*	破損チェック又は必要に応じて交換			○		○		

* : PGOの正規販売店で点検や交換をしてもらうことをお勧めします。

A : 顕著にエンジン性能が落ちている場合、機能点検又は交換の意味です。

2. 大気汚染システムコントロールメンテナンステーブル

項 目	点 検 項 目
イグニッション	もしエンジンのかかりが悪かったり、パワーが落ちていると感じるときは、ピストン・シリンダーヘッド・エキゾーストの点検をして下さい。 5, 000 k m～10, 000 k m ごとにして頂くことをお勧め致します。
ピストン	500 k m 走行したら、ピストンの調子を見て下さい。

注意一： （ 35 ページ参照 ）

エンジンが最初の走行距離 500 キロ又は 1 ヶ月を経過したら、正規取扱店にオイル交換を依頼して下さい。

注意二：

ブレーキオイルの交換

1. ブレーキメインシリンダー、或はキャリパーの分解をする場合、ブレーキオイルを交換して下さい。ブレーキオイルの残量を確認し、必要であれば補給して下さい。
2. メインシリンダーとキャリパーオイルシールは 2 年毎に交換して下さい。
3. ブレーキオイルチューブは 4 年毎に交換して下さい。（破損した場合、即交換して下さい）

排気ガス制御システム機能整備 （ 36 ページ参照 ）

1. 触媒がマフラーに取付けられています。個別に点検することができません。触媒の性能を一層よく維持するため、正しく使用、整備する必要があります。定期的に燃料・エアクリーナー・イグニッションシステムの清掃、点検、調整を行って下さい。
 - (1) エアークリーナーの清掃は 39 ページを参照して下さい。
 - 2 次空気システムの清掃・整備は 37 ページを参照して下さい。
 - (2) スパークプラグの点検を行って下さい。亀裂と詰りの点検をし、必要であれば交換して下さい。
 - (3) フューエルパイプの点検を行って下さい。亀裂と詰りの点検をし、必要であれば交換して下さい。
 - (4) エキゾーストシステムの点検を行って下さい。増締めし空気漏れしていたらガスケットを交換して下さい。
 - (5) アイドリングの点検を行って下さい。機能点検又は必要に応じてアイドリングの調整して下さい。
 - (6) 排気ガスの濃度確認は排気ガス検査設備を装備している販売店で行って下さい。

排気ガス測定基準値

	アイドリング（RPM）	CO（％）	HC（PPM）
法規値	-	3.0 以下	2000 以下
提案値	1600±100	1.0 以下	

注意：

- ①以上各項目の点検はエンジンを暖めてから行って下さい。
（シリンダーヘッドの温度が 110℃以上又は 10 分ぐらい暖めてからおこなって下さい。）

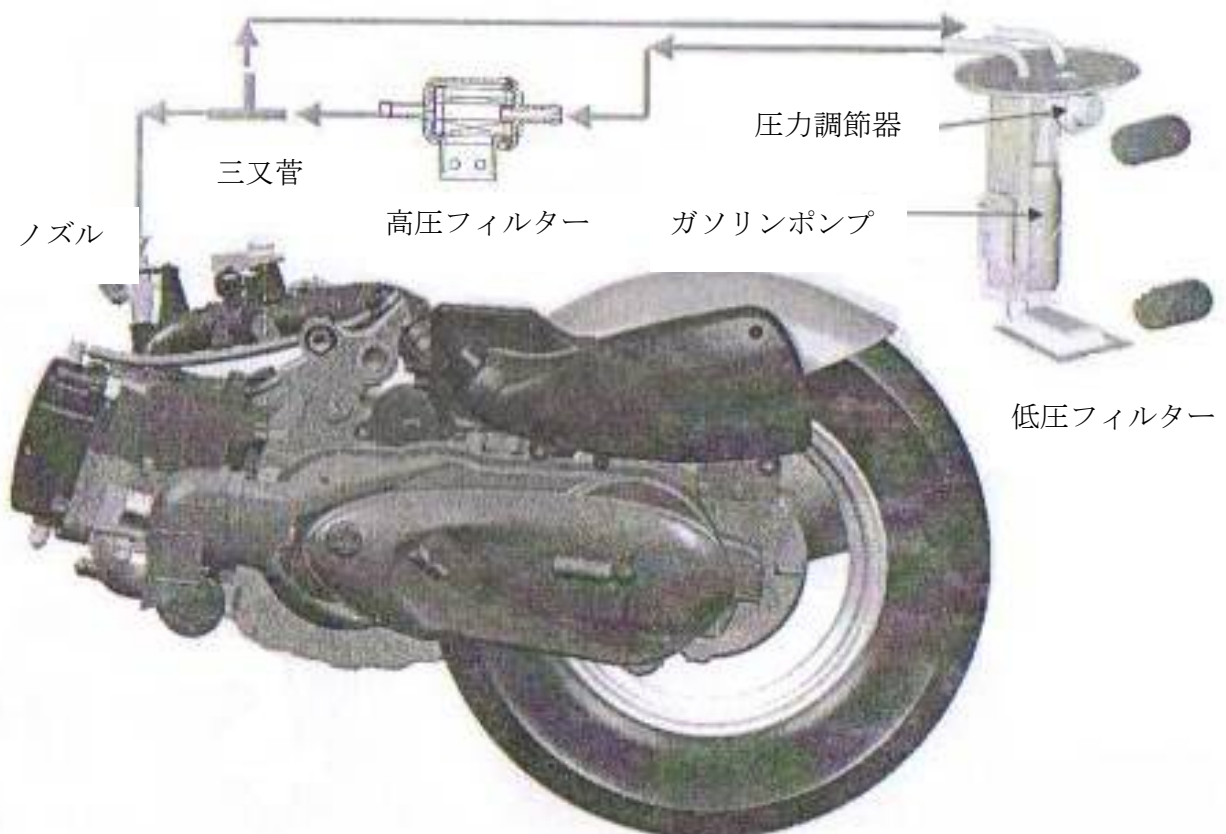
②回転速度をメインにして調整して下さい。

蒸発排気制御システム整備 (EEC) (36 ページ参照)

1. EEC は蒸発排気 (HC) 制御装置です。汚染を避けるため、ガソリントankからの蒸発油気を収集し、再燃焼させる機能を持っています。
2. 定期点検
 - ① 部品接続部の締付け、破損があった場合、きつく締め直す又は交換して下さい。
 - ② 活性炭素タンク：空気吹込み点検を行って下さい。詰った場合、交換して下さい。
 - ③ オーバーフローバルブ：スクーターを斜めにし、ガソリンの流出量が15cc/mm以上の場合、オーバーフローバルブに不具合があるので交換して下さい。
3. 不定期点検
意外な事故が発生した場合、EEC システムの配管回路又は部品破損、緩みがあるか点検して下さい。

EMS インジェクションシステムに関する燃料回路チャート (37 ページ参照)

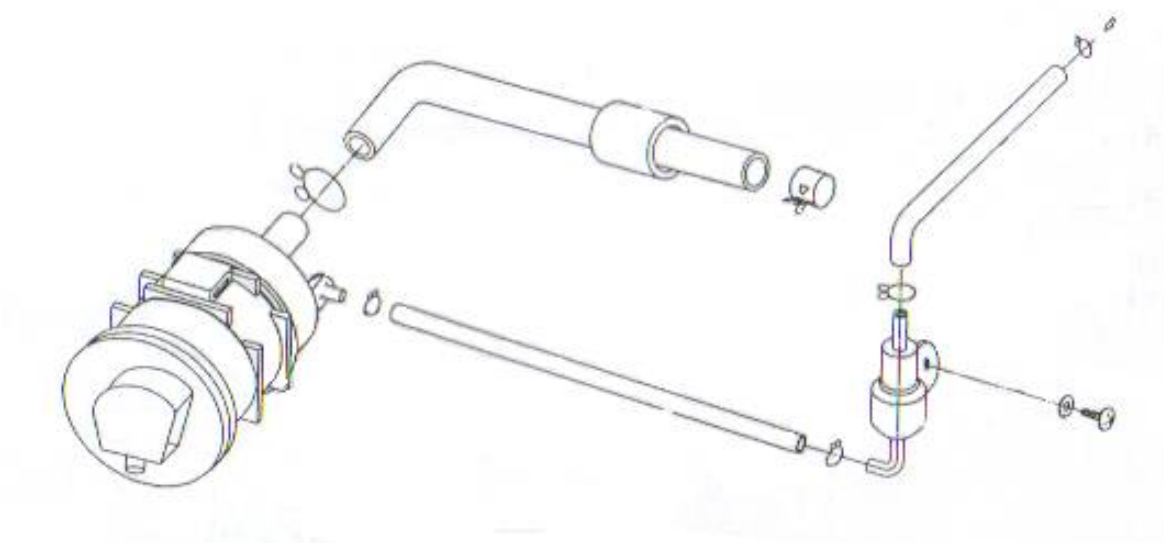
高圧フィルターは 20000 キロ毎に、新品と交換して下さい



燃焼蒸発H Cコントロールシステム （ 38ページ参照 ）

E. E. C SYSTEM

ガソリントank



注意： （ 39ページ参照 ）

弊社の許可なしで、スクーターの性能を低下するような改造をしないで下さい。

CO/H C

スクーターの使用が3ヶ月を過ぎたら或は3ヶ月毎に、CO（一酸化炭素）HC（炭化水素）の検査を行って下さい。

CO/H Cの検査は正規取扱店で行って下さい

エアーフィルターの点検 （ 39、40ページ参照 ）



1. ねじを緩めて取外して下さい。
2. フィルターのカバーを取外して下さい。
3. フィルターの芯を引抜いて下さい。
4. エアコンプレッサーによってきれいに乾かして下さい。
5. フィルターのカバーを取付け、ねじを締めてください。濾過していなかった空気をエンジンに入らないように、しっかり確認して下さい。

注意：

エアクリーナーを組立てる前にエンジンを絶対にかけないで下さい。ピストン／メインシリンダーの磨耗の原因となります。

スパークプラグの点検 （ 40、41ページ参照 ）

スパークプラグはエンジンにとって最も重要な部品であり、また簡単に点検の出来るところでもあります。スパークプラグの状態によって、エンジンの調子がうかがえます。理想的な電極の色は薄茶色です。もし問題があれば、正規販売店に点検に出して下さい。時間が経つにつれて熱や埃の影響で腐食したり、焼け焦げたりするのである一定の期間で交換して下さい。腐食したり、焼け焦げたりした場合は、新しいスパークプラグに交換して下さい。

標準スパークプラグ：CR7HSA（NGK）

スパークプラグギャップ：0.6－0.7mm

スパークプラグを点検する際、シールワッシャーとねじの表面をきれいにして下さい。そして新しいワッシャーを使い、締付けして下さい。

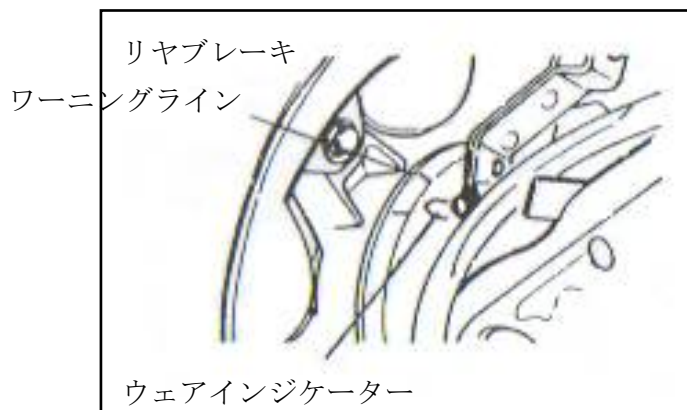
トルク：1.2Kgf-m

注意：

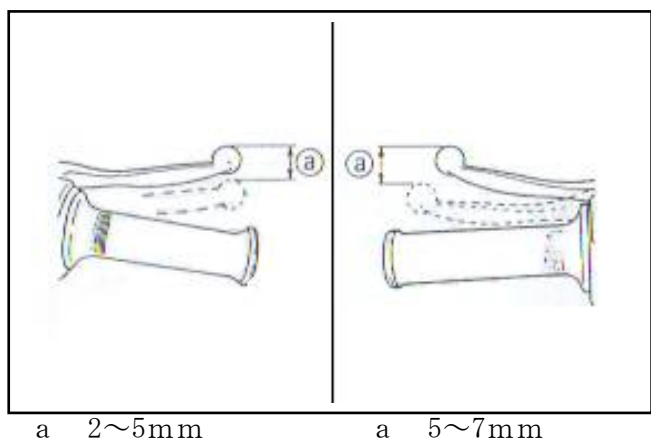
もしトルクレンチを持っていない場合は、指で回して、1/4 と 1/2 に合わせて下さい。そして後程レンチを使って標準トルクで締付けて下さい。

ブレーキの調整 （ 41、42ページ参照 ）

フロントブレーキレバーのクリアランスは2～5mmです。リヤブレーキレバーのクリアランスは5～7mmです。クリアランスがあっていない場合は、正規取扱店にお問い合わせ下さい



インジケーターがワーニングラインに届いた時には、リヤブレーキのシューを交換して下さい。



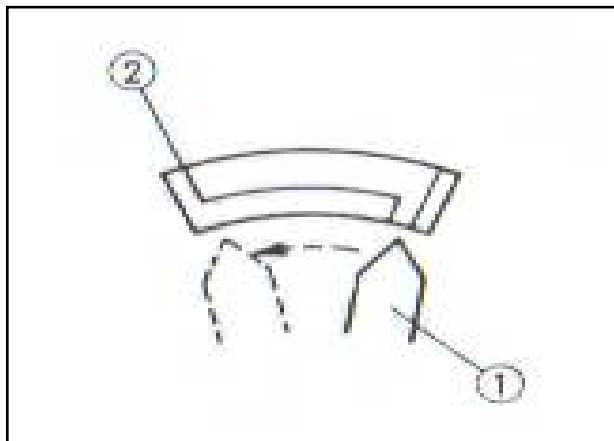
注意：

クリアランスがあっていない時は、ブレーキに危険が存在しています。調整する前に、絶対乗らないで下さい。正規取扱店にお問い合わせ下さい。

ブレーキシューの検査 （ 42 ページ参照 ）

ブレーキシューの検査を簡単にするため、ブレーキにインジケータを取付けています。確認する時は、インジケータを取外す必要はありません、目で確認することができます。インジケータがワーニングラインに届いた時には、正規取扱店でブレーキシューを交換して下さい。

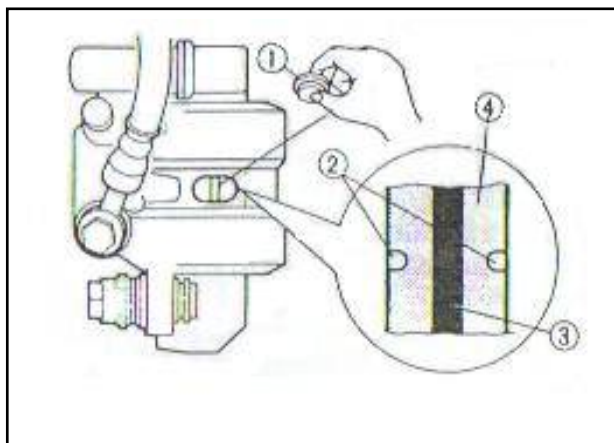
- ①ブレーキインジケータ
- ②ワーニングライン



フロントブレーキ （ 43 ページ参照 ）

ビューイングホールのカバーを開けて、点検の為にブレーキを作動させて下さい。もし、インジケータがディスクに届きそうであれば、正規取扱店で交換して下さい。

- 1. ビューイングホールカバー
- 2. インジケータ
- 3. ブレーキディスク
- 4. ブレーキパッド

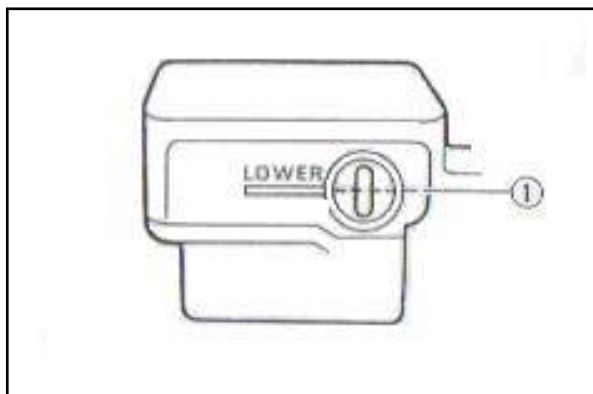


注意：

ビューイングホールカバーは必ず戻して下さい。もし、ブレーキエリアが濡れていたら、ブレーキの効きがあまくなり、大変危険です。

ブレーキオイル （ 43 ページ参照 ）

ブレーキオイル不足はブレーキシステムの中に空気を浸入させ、ブレーキが利かなくなる可能性があります。ブレーキオイルの量をチェックして、必要であれば補充して下さい。その際は以下の手順に従って下さい。



①ローレベル

1. オイルレベルを点検する時、ブレーキオイルが水平になるようにハンドルレバーを安定させて下さい。
2. 正しいブレーキオイルを使用して下さい。でなければ、オイルシールが損傷してしまいます。そしてオイル漏れやブレーキ機能喪失の原因となる危険性があります。
推奨ブレーキオイル：FMVSS DOT3 或は SAE J1703
3. 同種のブレーキオイルを補充して下さい。他種を使用したり混ぜたりしますと化学反応を起こし、ブレーキが損傷する原因となります。
4. メインシリンダーに水が入るのを避けて下さい。さもないとブレーキオイルの沸点が下がって気泡が生じ危険です。
5. ブレーキオイルによって、ペイントの表面やプラスチックパーツが腐食してしまうこともあります。もし、オイルを溢れてしまったら、処置して下さい。
6. もし、ブレーキオイルが標準のレベルまで補充できない時は、正規取扱店にて修理してもらって下さい。

フロントフォークの点検 （ 44 ページ参照 ）

注意：

アクシデントを回避する為にも、スクーターの日常点検を行って下さい。

1. 目で点検する……………インナーパイプが傷ついたり、損傷していたり、又はオイルが漏れていたりしていないか点検して下さい。
2. オペレーティングチェック………スターターを平坦なところへ置いて下さい。
 - a) ハンドルを持ってスクーターを水平な位置にして下さい。そして、右手でフロントブレーキレバーを握って下さい。
 - b) 2～3 回フロントフォークを持上げたり下げたりして下さい。

注意：

フロントフォークの作動に不具合を感じたり損傷していたら、正規取扱店にお持ち下さい。



目で確認



動作させてみて確認

バッテリー

バッテリーはメンテナンスフリータイプですので、液体自身や蒸留水が補充されているかどうか点検する必要はありません。もし、液体が漏れていたら、正規取扱店に持っていき点検してもらって下さい。

注意：

バッテリーが壊れてしまう可能性があるので、シールボトルは剥さないで下さい。

ヒューズの交換 （ 45 ページ参照 ）

1. ヒューズはバッテリーの横に位置しています（ステップボードの下）。
2. 写真を参考して下さい。
 - ① バッテリーヒューズ
 - ② EMS ヒューズ
3. もし、ヒューズが断線していたら、メインスイッチと問題のパーツのスイッチを切って下さい。そして新しいヒューズと交換して下さい。再びスイッチをつけて作動状況を確認して下さい。もし、またすぐに新しいヒューズが断線してしまったら正規取扱店で点検してもらって下さい。



注意：

オリジナルのスペックよりも高いアンペアのヒューズは使わないで下さい。
違うタイプ（異常な）ヒューズの使用によって、配線が強いダメージを受けたり、発火の原因となったりするので十分に気を付けて下さい。

保 証 書

お買上げ頂いたお車を構成する各部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、この保証書に示す期間と条件に従って、下記の保証修理を致します。

一. 保証範囲

1. 保証内容：

お車を取扱説明書に従った整備をおこない正常に使われている上で、万一、部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、無料修理いたします。（保証修理は部品の交換もあります）（以下この無料修理を保証修理といいます）。なお取外した部品は弊社の所有となります。

2. 保証期間

新車を登録または届出した日から 1 年間もしくは走行距離 15,000 km までのいずれか早い方までが保証期間となります。

3. 保証対象

PGO 日本代理店：(有)ナーベルフォースが販売する PGO ブランドスクーター

二. 保証修理の受け方：

保証修理をお受けるになる場合は、お車とこの保証書をお買上げの販売店へお持ち下さい。これにより保証修理を致します。提示されない場合は、保証修理をいたしかねます。

三. 保証できない事項

1. 次に示す事項は保証修理いたしません。

- (1) 時の経過で発生する不具合（塗装面などの自然退色、メッキ面などのさび、消耗品の劣化など）
- (2) 機能上影響のない感覚的現象（音、振動、オイルのにじみなど）

2. 次に示す事項は保証修理いたしません。

- (1) 地震・台風・水害等の天災・事故・火災に起因する不具合
- (2) 純正部品及び指定する油脂類（オイル・ブレーキ液・冷却液等）以外の使用に起因する不具合。
- (3) 煤煙・薬品・鳥糞・塩害等に起因する不具合
- (4) レース・ラリーなどによる酷使或は一般に車輛が走行しない場所での走行に起因する不具合。
- (5) 法令に違反する改造及び弊社の認めていない改造に起因する不具合
- (6) 盗難にあったお車
- (7) 無免許運転に起因する不具合
- (8) 保管または整備不良に起因する人為的な不具合

3. 次に示す費用は負担いたしません。

- (1) 消耗部品の費用（ライト類・ゴム類・ワイヤー類・ネジ類・ピストン・スパークプラグ・ワッシャー類・ブレーキパッド・ブレーキライニング・V型ベルト・ヒューズ・など）
- (2) 油脂類・燃料・バッテリー液などの交換補充の費用
- (3) お車を使用出来なかった事による不便さ及び損失など（電話代・レンタカー代・休業補償・営業損失等）

四. 保証修理をお受けできない事項

1. 法令及び取扱説明書に示す取扱方法及び異なる使用方法及び弊社が示す仕様の限度（最大積載量・乗車定員）をこえて使用した場合
2. 下記の点検整備を実施していなかった場合
 - (1) 乗車前の点検
 - (2) 弊社の指定する定期点検
3. 定期点検整備記録簿を保持していなかった場合
 - (1) 定期点検整備記録簿を大事に保管してください

五. 保証の発効

この保証書は、お買上げ頂いた正規販売店が保証登録書に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

六. 保証の継承

保証期間が残っているお車をお買上げの際は、ご購入後、直ちに正規販売店へお車と保証書をお持ちになり、名義の書換え、必要な点検（有料）と必要事項の記入、捺印をお受け下さい。これにより残りの期間を保証いたします。

七. 保証の適用

この保証書は、日本国内で販売し使用されることを前提としております。従って海外へ持出す場合は、その時点で保証が打ち切りとなりますので、ご注意下さい。

＊この保証書は、本書に明示された期間と条件をもとに無料保証をお約束するものです。この範疇を超えたものに関しては、原則として有償となります。

総輸入元

NOVEL FORCE INC. JAPAN.

お問合せ先：

埼玉県戸田市早瀬 2-26-28

TEL：048-449-0021

FAX：048-449-0022